

2016年度 雪上技術実地研修会 報告

- ◎実施期日 第1回：2017年2月4～5日（於 新潟県苗場 [旧浅貝スキー場付近]）
第2回： " 3月4～5日（於 群馬県みなかみ町土合 [土合橋付近]）
- ◎参加者 会員7名（内 インストラクター2名） 参加者平均年齢71歳
- ◎研修項目 ≪雪崩対策≫積雪断面観察、弱層テスト（コンプレッションテスト、ハンドテスト）、
雪崩埋没者捜索（アバランチトランシーバー、プローブ）、雪上シート搬送法
≪雪上技術≫雪上アンカー構築（スノーバー、スノーフルク、スノーボード、雪袋、枝、
回収可能な懸垂下降用ピッケル支点）、アンザイレン、
確保法（スタンディング・アックス・ビレー、腰絡み）、コンティニュアス登攀
（東京コンテ、大阪コンテ、ガイトコンテ）
≪スノーシェルター構築≫緊急ビバーク用雪穴、簡易型半雪洞（+半イグルー）

2016年度 雪上技術実地研修会（第1回）報告

（報告）Kunī

◎期日：3月4日（土）～5日（日）

◎場所：苗場・旧浅貝スキー場周辺（赤澤山荘周辺） [宿泊はAka山荘]

◎研修内容：1日目午後＝積雪断面観察、弱層テスト、雪崩埋没者捜索（アバランチ・トランシーバー、
プローブ捜索）、雪上シート搬送
2日目午前＝雪上アンカー構築、雪上確保（スタンディング・アックス・ビレー等）

今回受けた内容は私にとっては知識と道具はあるものの、実体験が無いというもので、今回体験したことで、想像とのギャップが埋まった有意義なものとなりました。

初日、まずは雪崩関連で、積層断面の違いから見る弱層であるのか否かの見極め、体感による弱層テスト、雪質の違いについてもレクチャーを受けました。また、その後アバランチ・トランシーバーとアバランチ・プローブを使った埋没者の探索と傷病者の搬送方法。アバランチ・トランシーバーは持ってはいたものの探索に使用したのは、これが初めてで、自前のものにもかかわらず使用方法も曖昧という始末でした。

二日目はスタンディング・アックス・ビレー等を含むロープによる確保方法で、スタンディング・アックス・ビレーについては、レクチャーを受けた中でも、緩衝動作を行わないときの衝撃が以外にも強いことが分かり、ちょっと衝撃(笑)でした。

何れの項目も、現場で繰り出す際は時間を要するなと感じていたが、これについても福寿さんからは、いざというときに「何も知らない、知っていても使ったことがない」より「実際に使える」という自信が大切で、余裕を持った精神状態で行動でき、その分リスクも低減できると聞かされ、「そのとおりだな」と思いました。

今回の研修会で、雪上での実地研修が私の実になったとは言ってもありませんが、別荘での机上ならぬ卓上研修も、多岐に渡る内容で大変楽しい一時でした。

皆様ありがとうございました。



(スタンディング・アックス・ビレーの練習)



(積雪断面観察と弱層テスト)

2016年度 雪上技術実地研修会（第2回）報告

(報告) Nakami c

◎実施期日：2017年3月4日（土）～5日（日）

◎実施場所：谷川連峰・土合橋付近

第2回は前回の丁度1ヶ月後の3月初旬、場所を谷川連峰・土合周辺に移し、Fukj（インストラクター）、Oh（幹事）の指導のもと実施された。場所は事前に幹事、インストラクターにより下見されており、またテキストも事前に追加配布され、現地ですらに追加された。

■第1日目

JR 水上駅に集合し、JR 土合駅前にマイカー2台で移動、

駅舎内のベンチを利用して座学。今回は各人が雪上技術それぞれに具体的に習熟することを目的にしていることが強調された。昼食後歩いて研修場所（白毛門登山口の夏季駐車場広場）に移動。晴天無風で暖かく、トマノ耳、武能岳、松ノ木沢ノ頭が良く見える。

まず、雪崩埋没者捜索法（ラフサーチ、クロスサーチ、プロービング）を2班に分散して研修。埋没ビーコンを水平、斜め、垂直の方向に置き換え、埋没深度も変え、機種も解析型、非解析型のそれぞれを使い、ビーコンの命ずるまま愚直に歩いた。埋没ビーコン発見後踏み跡のトレースを俯瞰することにより、ビーコン波がどのように発信されているか分かり、面白い。時々ビーコンを携帯するスノーシュートレッカーが通過し、彼らのビーコン波に混乱され、埋没者が複数ある場合の難しさも期せずして体験した。

次に緊急ビパーク用雪穴の構築である。雪崩等の危険がない大木の根元を掘る。それぞれ個性ある雪穴が掘られた。底に冷気が滞留することを教えられた。考えれば分かることであるが、注意されなけれ



(実施場所の白毛門登山口、後方は武能岳)

ば気づかなかったことである。また、掘った雪は雪穴の周りにブロック状に積み上げれば良い風除けにもなる。

本日の研修は予定通り終了し、有名な湯檜曾温泉「ホテル湯の陣」に移動。超満員である。なかなかいい部屋で軽くビールを飲み、1時間半の飲み放題・食べ放題の夕食バイキングを摂り、また部屋で軽く飲み、ゆったりした温泉に入り、熟睡。いつものことであるが、シリウスの飲み会は嬉しい。

■第2日目

翌朝8時にホテルを出て実施場所に向かったが、JR土合駅前はずでに登山者などの駐車場で満車。仕方なくロープウェー駐車場迄上がって車を駐車し、土合橋まで降る。赤澤合流。今日も快晴・無風である。

昨日選定していた斜面で、スノーバー、デッドマン、雪袋、スーパーの買い物袋を利用して雪上アンカーを構築し、それぞれの効き具合を確認した。さらにピッケル2本を利用した回収可能な懸垂支点構築の実演があった。その後2人構成3班に分かれ、これらとスタンディングアックビレイを組み合わせてアンザイレンで斜面登降する訓練を時間をかけて行った。

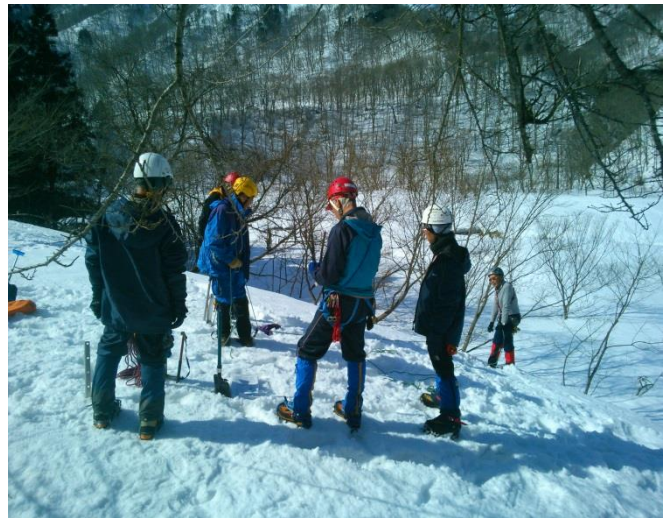
その後幹事により東京コンテ、大阪コンテ、ガイドコンテの実演があった。年配者はこれらのコンテに習熟することが体力的に困難であり、また逆に滑落を停止できない場合にはロープで結ばれた二人と一緒に滑落してしまう危険が大きく、急斜面などの厳しい状況下ではザイルパートナーの滑落を確実に停止させるためにはコンテではなくスタカットによるべきであるとの説明があった。



(緊急ビバーク用雪穴を掘る)



(雪中アンカーの構築)



(アンザイレンと確保の練習)

今回の最後は半雪洞+雪ブロックの簡易型半雪洞構築実習である。これは初めての経験である。雪洞を掘るには時間を要する。これを節減するため前面壁を掘り出した雪ブロックで積み上げ、雪洞とイグールを合わせ造るものである(今回は時間を節約するため、雪洞の掘り出しとブロック切り出しを別にした)。この方式の雪洞は、通常の雪洞構築時間の1/2~1/3程度の時間で構築でき、しかも通常の雪洞と同様な使い勝手と強度を持っているので、皆さんも是非試して頂きたい。

多少煩瑣になるが、ご参考までにその手順を以下に掲げておく。

①まず半雪洞を掘る、②入口部分に半お椀型にブロックを積み上げる、③スノーソーで入口を切り開く。内部の広さは収容人員の多寡によって掘り広げればよい。また使用後はきちんと埋め戻しておくこと。



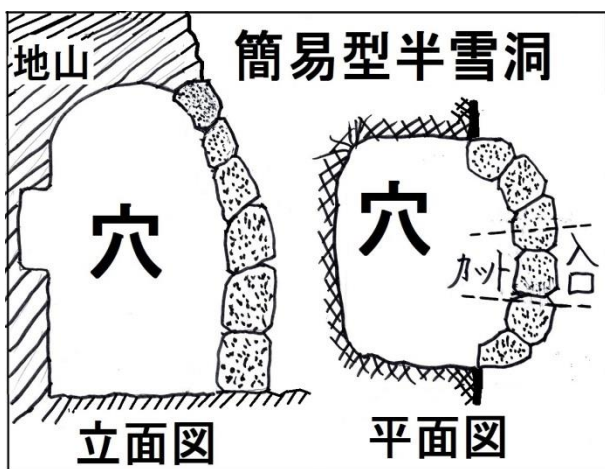
(①まず半雪洞を掘る)



(②入口部分に半お椀型にブロックを積み上げる)



(③スノーソーで入口を切り開いて出来上がり。ちゃんとシリウスの門札 [Σ] も付けました)



(簡易型半雪洞の構造)



(ブロックを積む前に記念撮影。皆さんお疲れ様でした)


幹事とインストラクターの入念な準備と好天により、今年度の研修も予定通り無事終了した。今回は

2回に分けて都合4日間の日程であったので、それぞれの研修項目に比較的多くの時間を割くことができ、かなり習熟できたと思う。幹事、インストラクターに感謝し、JR水上駅で解散した。

《幹事からひとこと》

悪天や雪不足のために昨年、一昨年と続けてキャンセルになっていた雪上技術実地研修会が本年やっと無事実施できました。参加者の平均年齢71歳（二周り以上若いKuniさんを除けば75歳）という高齢パーティーでしたが、皆さん元気印でよく頑張られて事故も無く終了できたことを嬉しく思います。

“高齢シリウス”も未だ未だ捨てたモノではないと改めて再認識した次第です。インストラクターを務めて下さったFukjさんはじめ、参加者の皆さん、ありがとうございました。（幹事：0h） （完）

「研修会報告」の目次に戻るには、画面最上段左端の[戻るボタン](#)  で戻って下さい